

# シラチャ日本人学校における現地理解教育と美術指導の実践

前泰日協会学校シラチャ校(シラチャ日本人学校) 教諭  
福島県福島市立信夫中学校 教諭 酒井 芳江

キーワード：在外教育施設、シラチャ、美術教育、国際交流、行事

## 1. はじめに

シラチャ日本人学校は、タイ国バンコクの東に位置するシラチャ市にある、小中学部合わせて生徒児童数440名からなる日本人学校である。タイ東部に日系企業が進出し、日本人子女が増えたため、10年前にバンコク日本人学校の姉妹校として設立された比較的新しい在外教育施設である。

縁あってタイのシラチャ日本人学校にて、図工・美術教師として教鞭をとる機会を得、小学部から中学部までの造形教育に関わるといふ貴重な経験をさせて頂いた。

国際感覚の育成の目的でタイの文化体験や現地校との交流活動を行っており、交流活動においてはタイと日本のお互いの文化を紹介し体験し合うという、日本では得られない学習をすることができた。また、文化祭や運動会などの学校行事も盛大に行われている。現地校との交流や学校行事では図工・美術教師としての役割を果たすべく奮闘してきた。美術教師としてそれぞれに関わったその概略を紹介したい。

## 2. 交流活動(中学部)について

中学部では現地の中高一貫校であるスッカポット校との交流会を隔年会場持ち回りで行っている。(小学部においても同様に現地校との交流学習実地) H27年とH29年はスッカポット校にて、H28年は本校で行われた。現地校開催でゲスト校として訪問した際には、タイダンス、タイの民族楽器、フルーツカービング、タイの食(ヤムウンセン・カノムクロック)作り、タイのスポーツ(セパタクロー)、タイの伝統的な遊び等の体験をすることができた。本校で迎えた際には、7月に開催したことから仙台七夕をイメージし体育館を飾り、短冊や七夕飾りつけた竹のアーチで現地校を迎えた。そして、日本の伝統文化である書道、華道、茶道、剣道、食文化(餅つき)の5つの分野に分かれ交流活動を行った。日本の文化を伝えるためには、まず自分たちが日本の文化を知らなければならないと、それぞれの文化について学び、「学んだことで、改めて自国の文化の良さを再認識できた」と感想を持った生徒がたくさんいた。その他、迫力あるよさこいソーラン節の踊りを披露し、その後一緒に踊って交流をした。また、記念品として、学校には中学部全員で作ったちぎり絵の浮世絵を、ペアで活動した友達には、美術で制作したかるた模様の切り絵のしおり(H27)、個性豊かな表情に仕上がった張り子の招き猫(H28)やダルマ(H29)をプレゼントした。タイ語、英語、日本語、ボディランゲージでコミュニケーションをとり、お互いの文化を伝え合い交流することができた。そして、クロスして手をつなぎ、大きな一つの輪になって歌った「思いやりの花」(タイ語と日本語)の歌声交流では、心が一つになり、シラチャ日本人学校とスッカポット校との友好の深まりを感じた。



美術の授業で制作した個人のプレゼント記念品



ちぎり絵のパネルの記念品

### 3. 文化祭について ～ Big Art 制作～

H29年は、それまで小学部（学習発表会）、中学部（合唱祭メインの文化祭）別開催だったものを合同開催にし、シラチャ祭という名で文化祭を行った。原画はテーマを基に全校生から募集し決定し、小学部1年から中学部3年までの全員が1人1枚を担当し、全校生で制作したA3画用紙450枚12M60×4M45のBig Artを制作した。開会行事での披露の際は、怒涛のような歓声が湧きあがり感動の瞬間であった。



テーマ「キセキ～ぼくらがつくる新たな1ページ～」

### 4. 運動会について ～赤白応援パネルとスローガン垂れ幕の制作～

運動会では、スローガンの垂れ幕と赤白の応援パネル作りを行った。係の児童生徒によるデザインである。パネルは畳1畳分程の大きさに赤白の応援シンボルを描いた。雨が降っても大丈夫なように厚手のベニヤ板にペンキで描いた。小学部高学年生と中学部の係が連日昼休みに制作を行った。

(H28は前国王御崩御のため運動会中止)



H27 運動会



H29 運動会

### 5. 小中合同作品展について



ホールでの展示の様子

3学期には、小中合同作品展を1週間ホールで行った。図工・美術の授業で制作した作品である。小学部は平面と立体作品1点ずつ計2点を、中学部は1作品を展示した。絵や版画、デザイン、工芸、彫刻、紙工作などバラエティーに富んだ作品が並んだ。ホールが美術館に変身し、保護者及び児童生徒が熱心に鑑賞する様子が見られた。小学部1年生から中学部3年生までの作品が一室に展示されることで、発達段階が分かる作品展であった。

## 6. 児童生徒のタイの工芸制作体験について

### (1) 小学部6年生

チェンマイ修学旅行において、セラドン焼絵付け体験を行った。セラドン焼についての事前学習と絵付けのアイデアスケッチを授業で行った。数週間後に焼きあがってきてから全員で鑑賞会を行った。



### (2) 中学部1年生

校外学習において、焼き物工房にて陶芸体験を行った。美術の授業において現地の陶芸について事前学習し、形と模様のデザインをスケッチブックに描いて臨んだ。工房においては、陶芸について職人から詳しく説明（採掘→陶土作り→練り→成形→乾燥→模様付け→乾燥→焼成）を受け、生活に根ざした地元の日用品制作の工程を見学した。その後各自ろくろ体験と模様付けを行った。



中1生徒が制作した焼き物（地元で採れた粘土使用）

### (3) 中学部3年生

美術の学習でベンジャロン焼絵付け体験を行った。近くのベンジャロン焼工房にて職人から詳しくベンジャロン焼について説明を聞き、金で描かれた細かい下絵の文様に上絵具をのせていった。

金の下絵の文様は手の込んだ細かい文様（文様の種類にも意味がある）で、本物の12金で描かれている。輪郭からはみ出さずに上絵の具を盛るのは至難の業であり、熟練の職人も気が抜けないとの話であった。高価なものも納得である。



象の置物に絵付け

## 7. 教員の現地理解教育

現地校訪問研修（現地校で日本文化体験の授業及び授業見学）、現地企業訪問（ロッテ工場・日本郵船）、現地文化体験を行った。現地文化体験では生活に関わる工芸としてベンジャロン焼き絵付け体験、竹細工、染織を体験した。

タイの現地校にて紙細工の切り絵体験をしよう



工房にて竹細工体験



染色体験

## 8. おわりに

「日本の文化を紹介するためには、日本の文化をまず知らなければならない。自分たちは日本の事について知らなすぎる」と交流会前に語っていた生徒がいた。彼らにとって、異文化の中において自国の文化を改めて見つめ直し、多様な文化の良さを見つけ、認める機会となった。また何より自分が図工・美術教師として交流会や行事を通して関わり、自らも日本文化についてそしてタイの文化を知ることで、日本人としてのアイデンティティーを改めて自覚したのである。